

Title	技術革新の進展と企業行動に関する一考察 - カラーテレビ・VTR産業の事例研究 -
Sub Title	
Author	川口信昭(Kawaguchi, Nobuaki) 古川公成
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1989
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1989年度経営学 第679号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001989-0679

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

技術革新の進展と企業行動に関する一考察 — カラーテレビ・VTR産業の事例研究 —

本論文の目的は、W. アバナシーが米国自動車産業を対象とした研究で提示した技術ライフサイクル理論と脱成熟化理論とがカラーテレビの市場とVTRの市場に当てはまるかどうかを検討する事である。あてはまるとなれば、この理論は、自動車産業のみならず、エレクトロニクス分野の中心的な領域でも、経営者に重大な示唆を与えることになる。

技術ライフサイクル理論によると、画期的新製品の市場導入期には、製品仕様を大幅に変えるような技術開発競争が盛んである。市場が拡大するにつれ、製品面では、細かな改良技術が中心となり、技術開発の焦点は、生産技術の改革に比重がかかり始める。この様に技術開発の性格をタイミングよく変更できる企業が高い市場地位を得てきたと言われている。

脱成熟化の過程は、技術の変化と消費者ニーズの変化とが市場の需給構造を変え、既存の製品デザインや生産システムに影響を与え、成熟産業を再度活性化してゆく過程である。

本研究では、技術ライフサイクルの存在を確かめるために技術年表から技術内容を第一次的製品技術、第二次的製品（改良）技術及び生産技術とに分類し、その開発内容がライフサイクルの進展と共に変化しているかどうかを考察した。脱成熟化の過程については、技術と市場の両面から変革力を測定する分析マトリックスを作成し、当該産業の脱成熟化過程を考察した。

以上の分析の結果、W. アバナシーの2つの理論は、カラーテレビとVTR産業に適合する事が確認できた。

結論として、「産業の進化過程では市場変化を的確にとらえ、製品開発や製造工程での技術内容を柔軟に変えて行くことが、企業競争上必要である」ことを確認した。